

レジデントのための アレルギー疾患診療マニュアル

著：岡田 正人



A5 頁 392 2006 年
定価 4,410 円(本体 4,200 円+税 5%)
[ISBN 978-4-260-00145-8]医学書院刊

『レジデントのためのアレルギー疾患診療マニュアル』は、アレルギー専門医をめざすレジデントだけでなく、他の分野に進む臨床研修医、プライマリケア医にもお勧めしたい本である。

著者の岡田正人氏は、医師免許取得後、横須賀米海軍病院で卒後研修生として1年間臨床研修を受けた。1991年に渡米してNew YorkのBeth Israel Medical Centerで3年間内科レジデントとして臨床のトレーニングを受け、さらにYale Universityで3年間フェローとしてリウマチ学とアレルギー学の臨床と研究に従事した経歴をもつ。米国の内科専門医、アレルギー・臨床免疫科専門医、リウマチ科専門医の資格を取得している。その後、フランスのAmerican Hospital of Parisで内科、アレルギー、リウマチの診療を続け、2006年4月から聖路加国際病院のアレルギー膠原病科に勤務している。日本、米国(コネチカット州)、フランスの医師免許を取得している。

本書は、アレルギー疾患診療に関して米国で受けた体系的な臨床研修の体験を基盤にして、その後の日米仏における診療のなかで身につけた臨床経験と、アレルギー全般に関する著者自身の生涯研修の成果をまとめたものであり、アレルギー診療を行うための実践書である。

アレルギー疾患は、全身性疾患であり、小児か

ら高齢者まで幅広い年齢層が罹患する。わが国ではアレルギー疾患の教育が、小児科、内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科など別々のアプローチで行われることが通常である。本書では、アレルギー医は全身を診ることが重要であることを強調し、「アレルギー疾患の診方・考え方」を最初に置いている。呼吸器系のアレルギー疾患を連続した病態(one airway one disease)として理解すること、年齢によって頻度の高いアレルギー疾患やその原因となるアレルゲンや症状が異なることを念頭に置いて診療にあたる必要があることなど、アレルギー疾患診療の基本的考え方を示している。

食物アレルギー、アナフィラキシー、アレルギー鼻炎、副鼻腔炎、喘息、薬物アレルギー、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、血管浮腫、接触性皮膚炎などの各論においても、診断・治療・予防についての要点をEBMに即して記述してある。海外・国内の主要な論文は文献として引用されており、その中には日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会監修の『喘息予防・管理ガイドライン2006』や厚生労働科学研究班による「食物アレルギーの診療の手引き2005」などわが国における最新の診療ガイドラインも含まれ、臨床第一線の専門医にとっても役立つと思われる。

週刊医学界新聞に寄稿した「米国における専門医資格更新制度」に著者が2005年に米国のアレルギー・臨床免疫科専門医更新試験を受験した体験が述べられており、日頃の研鑽の成果が本書の基盤となっていることが推測される。(http://www.igaku-shoin.co.jp/nwssprr/n 2006 dir/n 2679 dir/n 2679_02.htm)

本書が臨床研修医に広く読まれ、アレルギー診療に対する理解と関心を高めることを願うとともに、著者の経験がわが国の医学教育や卒後教育にさらに活かせることを期待したい。